

ごあいさつ

自然史博物館では毎年、たくさんの生物や化石、地質などの標本を収集しています。そのうちのいくつかは展示室で展示されることもありますが、実はほとんどの標本は博物館にやってきた後、そのまま収蔵庫で保管されます。収蔵庫は今みなさんがいるネイチャーホールの建物の地下にあり、そこには当館が発足したおよそ60年前から集め続けた標本が、数にして100万点以上眠っています。この標本からは、例えば「この時代の大阪はこんな地形で、こんな気候で、そしてこんな生き物がいた」ということがわかります。博物館にはこのような自然史学を研究する人たちが日々やってきては収蔵庫にこもり、標本を調べ、そうして自然の記録を明らかにしています。博物館が標本を収集する活動は、私たちをとりまく自然の「データベース」を作り、後世に遺す営みといえるでしょう。

ところが、このような活動は文字で表現しても、具体的に知って頂くことにはなかなかつながりません。そこで、最近博物館に届いた標本を特別陳列という形でご紹介することにしました。分野は様々ですが、その中でも学芸員が資料として「一級品」と思うものを選んでいきます。この機会にぜひ、博物館一押しの学術標本の世界をご堪能ください。

特別陳列が終わればこれらは収蔵庫に戻りますが、またきっといつか、自然の記録を人々に語る日が来ることでしょう。

大阪市立自然史博物館
館長 山西 良平

謝 辞

自然史博物館の資料収集活動は、多くの方のご支援とご協力によって支えられています。今回の展示資料の収集、ならびに本特別陳列の開催にあたっては、以下の方々にお世話になりました。ここに記してお礼を申し上げます。

芥川緑地資料館あくあびあ芥川、新田敦子、新田 智、大阪府、大阪文化財研究所、窪寺恒己、京阪電気鉄道株式会社、国立科学博物館、近藤高貴、財団法人地域地盤環境研究所、坂根 健、新名神高速道路大阪府域標本目録作成研究会、蝶研出版、西垣外誠子、西垣外正行、西日本高速道路株式会社関西支社大阪工事事務所、細田倅市、水野弘造
(五十音順、敬称略)